



Midorea-OV vol.7

# 津南町

## ACCESS

新潟駅から車で2時間  
新潟空港から車で2時間30分



津南町は新潟県の南端、長野県栄村との県境に位置し、千曲川が信濃川と名前を変える最上流に位置しています。年間の1/3が雪に覆われる日本有数の豪雪地帯ですが、積もった雪は雪解け水として農地を潤すほか、数十年かけて濾過され清冽な湧水となり、豊かな恵みをもたらしてくれます。また、階段状の河岸段丘に形成された農地は気温の日較差が大きく、良質な農産物生産に適した環境となっています。

「農を以て立町の基と為す」の町是が示すように、町の基幹産業は農業で、魚沼産コシヒカリをはじめ、広大な開発畑では、アスパラガス、人参、スイートコーン、ユリ切り花等が生産されています。さらに養豚やきのこと栽培も盛んで、集められた家畜糞は廃菌床やもみ殻と共に堆肥化されて田畑に還元されるなど、有機資源を活かした循環型農業が定着しています。

津南町ではこうした持続型農業を加速化し、有機農業や脱炭素農業など、環境にやさしい生産方式にもできるだけ取り組むことで、次世代に誇れる持続可能な町づくりを目指すとともに、健やかで心豊かに暮らせる未来を次世代に引き継いでいく責務を表明するため、令和7年11月にオーガニックビレッジ宣言を行いました。

町是「農を以て立町の基と為す」

## 取組紹介

### ○有機稲作除草技術の検証・確立

最新の自動抑草ロボットや抑草資材等の実証試験を行い、省力化と生産性を両立できる有機稲作除草技術の確立を目指しています。

### ○オーガニック給食の推進

小中学校の学校給食へ魚沼産コシヒカリや人参、さつまいも等の町産有機農産物やそれらを原料とした加工品を提供することで、有機農産物の消費拡大と児童生徒における食と農への理解促進を図っています。

### ○消費地との交流や消費拡大

首都圏等の消費地との交流を積極的に進め、町外における有機農産物の消費拡大と、都市―農村間における食料・農業連携の確立を目指しています。



皆さまのおかげで、創業30年

## 株式会社 ごはん

(代表取締役 大島知美さん)

遡ること35年前、誰も有機栽培に取り組んでいなかった津南町で有機栽培に挑戦し、数多くの失敗を重ねながらも有機栽培の技術を積み上げてきました。自家製堆肥をふんだんに使い、除草は特許出願の除草機を自ら開発、害虫は天然ミネラル酢を使用することにより、生産も安定しました。現在は、有機栽培の先駆者として魚沼コシヒカリのほか、大豆やもち麦、野菜も有機栽培で生産し、さらにそれらの加工品も手掛がけることで、有機栽培の六次産業化を果たしてまいります。

## 宮崎 朗さん

東京生まれの千葉育ち。1996年に千葉県柏市から津南町に移住し農業を始めました。最初は70aほどで切り花を栽培していましたが、「やっぱり農業をやるなら食べられるものを作りたい」ということで、現在にはにんじん、じゃがいも、さつまいも、在来大豆等約6.8haをほぼ有機栽培で生産し、雪下ににんじんジュースやさつまいもチップスなどの加工品も手掛けて消費者に直接販売しています。



## 地域おこし協力隊

令和8年4月から地域おこし協力隊(有機農業ミツシヨン型)に着任した由佐憲一です。前職は東京都港区六本木にて飲食店を経営していました。コロナ禍でたまたま知り合った農家さんが作った有機米に感動し、自分もこれからは生産者として有機栽培にチャレンジしたいと思ったことがきっかけで、有機農業を進める津南町に移住しました。栽培技術はまだまだ勉強中ですが、飲食店時代の料理人仲間とのパイプを活かし、津南町の農産物をどんどんPRしていきたいと思っています。